

会 議 録

会議の名称		第 4 回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議		
開催日時		平成 28 年 3 月 17 日（木） 開会 10：00 閉会 12：00		
開催場所		つくば市役所消防庁舎 3 階多目的ホール		
事務局（担当課）		市長公室ひと・まち連携課		
出席者	委員	・株式会社カスミ 藤田 元宏 ・一般社団法人つくば観光コンベンション協会 大山 寛 ・つくば市商工会 桜井 姚 ・つくば市農業委員会 高谷 榮司 ・つくば市農業協同組合 津田 康美 ・株式会社エデュケーションデザインラボ 平塚 知真子 ・筑波学院大学 大島 慎子 ・国立大学法人筑波技術大学 生田目 美紀 ・国立大学法人筑波大学 BENTON Caroline Fern ・つくば市中学校・高等学校長協議会 井坂 博子 ・つくば市 P T A 連絡協議会 米徳 康博 ・つくば市福祉団体等連絡協議会 後藤 真紀 ・つくば市ボランティア連絡協議会 柘植 法子 ・一般財団法人つくば市国際交流協会 小玉 喜三郎 ・公益財団法人つくば文化振興財団 飯野 哲雄 ・株式会社常陽銀行 櫻井 裕之 ・株式会社筑波銀行 沼田 数人 ・つくば市シルバー人材センター 福田 征男 ・日本労働組合総連合会茨城県連合会 カスミグループ労働組合連合会 奥谷 崇 ・株式会社茨城新聞社 関 富美也 ・一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス 小山 幹治 ・常陽新聞株式会社 棚澤 悟 ・つくばコミュニティ放送株式会社 岩崎 幸教 ・筑波地区区会連合会 鈴木 忠雄 ・桜地区区会連合会 一色 喜美子 ・谷田部地区区会連合会 木村 眞一 ・荃崎地区区会連合会 小原 正彦 ・つくば市議会 塩田 尚 ・つくば市議会 塚本 洋二 計 29 名		
	その他	オブザーバー つくば市副市長 岡田 久司		
	事務局	稲葉市長公室長, 高田市長公室次長, 長ひと・まち連携課長, 課員 5 名, 各部の次長・企画監等		
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1 名

様式第 1 号

会 議 次 第	【全体会議】	
	1	開会
	2	議事
		(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について
		(2) 地方創生交付金事業の評価・検証について
		(3) 平成 28 年度以降の事業について
		(4) その他
	3	閉会

1 開会

○公室長 定刻を過ぎましたので、それでは、ただいまから第 4 回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。

本日は、年度末の大変お忙しいところを御参集いただきましてまことにありがとうございます。

本日は、現在 29 名の委員に御出席をいただいていますことを御報告いたします。

続きまして、議事に入る前に配付資料の確認をいたします。

○事務局 (配布資料の確認)

よろしくお願いいたします。

2 議事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について

○公室長 それでは、ただいまから議事に入ります。ここからはつくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第 5 条第 3 項の規定に基づきまして、座長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○座 長 皆様、おはようございます。

本日は第 4 回の有識者会議で、前回第 3 回は 8 月に行われましたので、約半年、何か久しぶりにお会いするという感じになりましたが、この間、パブリックコメントや実際の施策等を実行していただいております。昨年 6 月、我々は 5 年の任期で任命されたわけですが、5 年間この進行状況をチェックもするという役割でございまして、本日は初年度、まだ若干残ってはいませんが、27 年度の実行状況について皆様からチェックをいただきたいということで進めてまいりたいと思います。

それでは、まず、最初に議題の (1)、評価・検証についてですが、その方法に関しまして最初に事務局の方から御説明いただきたいと思います。よろ

しくをお願いします。

○事務局 （資料 1－1， 1－2 の概要を説明）

○座 長 事前に資料は御覧になっていると思いますが，どの対象を今議論しているかというのは御理解いただけましたでしょうか。議題（2）ではこの山の三角の部分だけを対象にしまして，議題（3）の方で右下の，国による交付金の活用について分けて評価したいと思います。これについて御質問等ございますでしょうか。

それでは，早速ですけれども，具体的な基本施策，個別施策に対する重要業績評価指標についてです。今回は初年度でもあり，総合戦略の中にも書いてありますが，PDCAの，我々はこれまでPをつくり，Dを施行していただいたわけですが，そのサイクルの中の1年目のチェックということです。これから多分いろいろな説明があると思いますが，査定というよりは次の年度のアクションへ向けての助言といいましょうか，そういうようなコミュニケーションのツールとしてこの機会を利用していただければと思います。次の個別の説明の方をよろしくをお願いします。

○事務局 （資料 1－3， 1－4， 1－5， 1－6， 1－7， 1－8 の概要について説明）

○座 長 ありがとうございます。なかなか込み入った表で，見るのに大変だと思いますが，ではこれから 20 分ほど御討議いただきたいと思います。最初に，分けて，基本目標に対して，資料 1－4 及び 1－5 に基づき，お気づきの点，御説明いただいた以外の点でも結構ですので，御意見あるいは御質問等ございましたらお願いいたします。

○委 員 国では，日本の人口が 1 億人程度に減少するであろうと。そういった中で 1 億総活躍社会を実現するということを掲げられております。それと，日本が元気になるには地方が元気にならなきゃいけない。地方創生ということが鍵であるということを出されています。

そういった中で，つくば市は，市長のあいさつの中で，人口ビジョンによると，2036 年に 25 万 9,000 人，将来的には 23 万人程度の人口を確保するということを言われています。

そういった中で，今，総合戦略にある 5 ページで，つくば市の長期ビジョンというものを具体的にどのように掲げられているのかということなのですが，市長のあいさつの中では，未来構想の中に掲げている「住んでみたい 住み続けたいまち つくば ～人と自然と科学が育むスマート・ガーデンシティ～」だと。これを長期ビジョンにとらえてよろしいでしょうか。

やはりこの長期ビジョンをまず縦軸にして，今 5 年間でやっていこうと言わ

れている総合戦略ですね、これは中期だと思います。これはやっぱり、縦軸があって、横軸としてこの4つの中期のビジョンということになっていると思うのですが、具体的にまず長期ビジョンをやって、中期ビジョン、そういうことをやった方がいいのではないかと思います。

○座 長 今は個別の指標の話ではないのですが、この位置づけ、中期と長期の関係についていかがでしょうか。

○公室長 つくば市では未来構想というのを提起しておりまして、これは従来の総合計画の基本構想という形に近いものですが、その中で、未来の都市像として、「住んでみたい 住み続けたいまち つくば ～人と自然と科学が育むスマート・ガーデンシティ～」ということを都市の姿として描いています。

今回、まち・ひと・しごと創生の総合戦略に当たりましては、皆様方に御協力をいただきまして、人口ビジョンというのを策定いたしました。こちらの中で、過去の人口の推移とか、つくば市の特徴などを分析しまして将来の人口推計を行っております。その中で課題として何点か挙げさせていただいて、それらの課題を解決するための方向性ということで、先ほど申し上げましたような4つの基本目標を掲げております。

それが、「つくばの特性をいかした産業競争力の強化でしごとをつくる」「結婚し、子供を産み・育て、健康に生活できる環境をつくる」「交流・居住環境の魅力を高め、つくばにひとを呼び・ひとを留める」「公共交通網で結ばれた安全で安心な地域をつくる」、こちらの基本目標に沿うことで将来の人口を確保していこうというようなことで総合戦略がつくられておりまして、その総合戦略を達成する指標という形で皆様方に御議論をいただいているところでございます。

総合戦略はとりあえず5年間の戦略でございしますが、基本目標を見据えながら、5年ごとに論議をしていって作業していくという考え方でございます。

○座 長 基本的な御質問だと思いますけれども、PDCAのPの段階について前回議論したわけですが、毎回これは、長期と中期の関係をいつも原点に帰りながら今後議論していきたいと思いますが、今回はそういう意味で、DとCが妥当かどうかということで御議論いただければと思います。

○委 員 それともう一点、総合戦略の6ページですね、PDCAがありますけれども、この中に、COOといますか、コーディネート、こういったことが必要なのではないのでしょうか。その辺はどうでしょうか。

ビジョンに向かって真っ直ぐ行っているのかどうか、横道にそれていないかとか、各セクションとの調整役ですね、そういったことが必要だろうと思うのですが。

○座 長 私も全く同意しますが、それにつきましても多分この後、個別に議論すると、やっぱりコーディネートが必要だという話になるかもしれません。それはまた後ほど御議論いただければと思います。

ほかにございますでしょうか。特にこの表の何項目、あるいは御説明されたこと以外についても、あるいはこの表の書き方自体についても御質問等ございましたらいかがでしょうか。

○委 員 資料 1－4 の①－3 と 4 というのは関連してくる項目だと思います。

①－4 のところの「効果発現要因」で、「保育所を一定数整備したにもかかわらず」と書いてあるのですが、この一定数というのはどのように解釈したらいいのでしょうか。

○福祉部 保育所の待機児童数の削減につきましては、これを一定数整備したというところの御質問だと思いますけれども、27 年度開園に向けて 26 年度から整備を始めまして、子ども・子育て支援プランというものにに基づきこの整備を行いました。

新設の保育所 3 カ所を 4 月 1 日に新たに開所いたしまして、また、皆様御存じだと思いますけれども、BiVi つくばにも駅前保育所というのを開設しました。

そのほか、民間保育所での定員枠の拡充ということで増築等を行いまして、全体で 270 プラス 200 ですから、27 年度中に 470 の定員枠を拡充しました。そういったところが、この「一定数整備したが」という主なことで御理解いただければと思います。

○委 員 それで、現実のところでは少し遅れているということですが、今後にもさらに増やしていくという御予定はあるのでしょうか。

○福祉部 今後につきましても、子ども・子育て支援プランに基づき民間保育所等の整備を行っていきます。かつ、小規模保育所といいまして、無認可等で行っている小規模保育所の認証等も含めて定員枠の拡充を図っていくということで、目標にありますように、31 年度ゼロというところを目指していきたいと考えております。

○座 長 初年度ということでまだばらつきのあるところだと思いますが、この大項目Ⅱというのが最も重要な課題でありますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。ほかにございますでしょうか。

○委 員 サイエンスシティとして、小学生の校外学習のコースにというのはどこに入っていますか。これまでも発言してあるのですが。

○座 長 では、資料 1－5 以降も含めてということをお願いします。

○事務局 修学旅行、校外学習等の呼び込みについてですが、総合戦略、冊子でいいますと 47 ページ、概要版でいいますと 7 ページ、「交流・居住環境の魅力高め、つくばにひとを呼び・ひとを留める」の 2、「つくば市を知り・好きになり・選んでもらう」の (1)、「観光の振興」というところで、今御指摘のあった具体的な事業という形で、修学旅行や校外学習の呼び込みという形で記載をしています。

総合戦略では 47 ページの白抜きのマルがついているところで具体的な事業という形で記載をしていますので、K P I そのものは「観光の振興」で、「観光客入込客数」という指標を設定しています。

具体的な筑波山の観光機能強化、ジオパーク推進事業、こういった事業を行うことで総合的に観光客の入込客数をふやしていくという形で、具体的な事業を包括する目標として設定をしております。

資料 1－6 でいいますと、②－ 35、「観光客の入込客数」という項目がありまして、自己評価が「B」、概ね順調となっています。現在 356 万人のものを 360 万人まで向上させるという目標で、平成 27 年度 332 万人の目標に対して実績も 332 万人とほぼ同程度で、総合評価が「B」となっています。こちらの指標に入れ込む形で検討させていただいています。

○委 員 観光とは違うので、戦略的に定住者をふやす意味でも、小さいうちからサイエンスシティを活用するべきという発言をしているのですが。

○座 長 資料 1－7 の中で今御説明いただきましたのが何ページか、具体的にページを示して御説明ください。

○経済部 指標的には修学旅行の戦略ということではないんですが、先ほどもございましたように、観光客の入込込み数ということの指標を明示してございます。こちらは、T X 開通が平成 17 年、その基準が 16 年の入込込み数を基準にしてございます。T X 開業から大幅にふえました。それに合わせて首都圏から筑波山への修学旅行等も増えているところでございます。

ただ、T X で、首都圏から 1 時間弱でつくばに来る、それから筑波山の方へも来る。一度訪れた方につきましてはいつでも来られるということがございまして、T X の開業年次とともに若干ずつ減少傾向にございました。

それが、平成 21 年の東日本大震災におきまして放射能等の事故がございまして、小中学生、幼稚園の園児等の遠足、修学旅行が大分減ってしまった。それをいかに盛り返すかということで、ただいま、東京事務所、また首都圏の特別区等々と連携を図りながら、首都圏からの誘客を進めております。

様式第 1 号

○委員 修学旅行じゃなく校外学習として戦略的に組むようにという意見を出してあります。

○座長 議論が少し食い違っているかもしれません。できましたら、このページのどこの議論をしているのか、ほかの方にわかるように御説明いただければ。御趣旨は多分、連携してやってくださいという御趣旨だと思いますけれども。よろしいでしょうか。

○委員 分かりました。

○座長 これは後でまた、ほかの分野でも同じようなことがあるかと思えます。

ほかにもございましたら、資料 1－6，7 も含めていかがでしょうか。まだ時間がありますので、どうぞ。

○委員 資料 1－6 のⅡの「結婚し、子どもを産み・育て」のところの(3) 障害者の地域生活支援なのですが、新しくペアレント・トレーニングというのを療育施設の方で来年度から始めるそうですが、3施設で5人。これは年ごとに累計になっているのですが、1施設5人を実行することで、すごく目標が低いというか、今までやってなかったペアレント・トレーニングの効果もどうかちょっとわからない。目標達成しやすい設定になっていて、このペアレント・トレーニングがどこからどういうふうにお母さんたちの要望があったのかどうか、その辺の説明をお願いします。

あと、ペアレント・トレーニングの先生をどこから、どういった先生を呼ぶのかというのがすごく気になったので、分かりましたら教えていただきたいと思います。

○福祉部 ペアレント・トレーニングにつきましては、平成 27 年中におきまして、福祉支援センターさくらの1カ所で試行的に行いました。その前に、県内の実施市町村の方に研修に行きまして、実際にその有効性であるとか方法論であるとか、いろいろと学ばせていただきました。

その中で、福祉支援センターさくらの方の利用者のお母さん方から、ぜひこういったことを取り入れてほしいという御要望がございまして、試行的に 27 年中に行いました。

目標値の5名というのが若干少な目であろうということでございますが、今回、さくらでは1クール5名を事業所として行いまして、28年度以降は市内にございます3カ所の児童発達支援を行っている福祉支援センターの方で行っていくという形をとっていきたいというふうに考えております。

また、将来的には民間の児童発達支援を行っているサービス事業所の方にも展開できていければという構想もございます。

様式第 1 号

それから、講師につきましては、障害福祉課の方に臨床心理士が 2 名います。この臨床心理士が直接の指導に当たるという形になります。

○委員 3 施設へ 2 名ということは、もう一人はまたどこから適切な講師をお招きするということですか。

○福祉部 講師につきましては、臨床心理士が直接行います。こちらの方法論としましては、講義の部分であるとか、グループワークであるとか、ホームワークであるとかいう形をとって、実際に発達域であるお子様等へのかかわり方を学んでいくという形でございますので、ある程度 1 クールを少人数化して、年間に 2 クールぐらい開ければいいのですが、28 年度中は一応目標として 1 クールを考えています。その効果を検証いたしまして、次にまた方法論を改善しながら、どういうふうに進めていくかというのも一つのやり方の中には入ってくるかなと思いますので、PDCA サイクルじゃないですけども、そのような形をとりながら、よいものにしていきたいと考えております。

○委員 分かりました。ありがとうございました。

1 施設 5 名というのが、すごく少ないという声があったので、まずそれを言いたかったのと、来年度から人数を増やすという可能性もあるのかなと思いました。

次に、②－13 と②－14 と②－15 なのですが、日中一時預かりサービス実利用者数と放課後デイサービス実利用者数と短期入所実利用者数ですが、それも自己評価が全部「A」になっていますが、目標達成のしやすいところを選ばれたような気がしてなりませんでした。

障害者団体としては、もっと緊急性のある、困っていることがたくさんありますので、この事業所の方が、今、子供福祉法の方に変わっていますので、事業所がどんどんできていて、知的障害者を持つお母さんたちはとても助かっているそうですが、重度の心身肢体不自由のお子さん方の入所の待機人数を見ますと 80 人待ちで、80 人待ちというのは実際のところ 40 年から 80 年待ちみたいなことが起こっているというので、できればそういう、緊急性と困っている度合いが高いところを上げていただきたいなと思いました。

○座長 ありがとうございました。重要な御指摘だと思います。また後ほど詳しくメール等で御指摘いただければよろしいかと思います。
ほかにございますか。

○委員 全体についてなんですけれども、例えば 1－6 の資料の中で、これまでにいろいろ自己評価してきて C が 6 つと D が 7 つだと思うのですが、今後どういうアクションというか、どうやってこれをレビューしていくかとい

様式第 1 号

うプロセスを次のときに説明されるのでしょうか。

○座 長 全体にかかることは最後でまた表になっていると思いますが、それでは後ほどまた追加の説明をいただくようにします。
ほかにございますか。

○副座長 今たまたま障害者のことの質問がありましたので表を見ておりまして、障害者ではないのですが、「子育て環境の整備」の「市内で出産したくても出産できなかった人数」というところで、「概ね順調」と。これは減らす方向なのですが、出産したくても出産できなかったというのは、どこかの病院なり、どこかに入院したいとか出産したいと言って断られたという人数なのでしょうか。

というのは、一般的に出産のときは実家に帰ったりする女性が多いと思うので、出産自体は県外に行くということは非常にあり得ると思うのですが、この根拠は、どうしてもつくば市でしたいと言ったのに断られたというような客観的な根拠があって出しているのか。ここだけ説明していただきたい。

○健康増進課 この調査は、私どもで所管しております「赤ちゃん訪問」というのがありまして、生後4カ月未満の赤ちゃんを持つお母さんに一軒一軒訪問した際にアンケート調査を行って、つくばでの出産だったのか、あるいは、市内で予約して出産したかったが予約がとれないので、やむを得ず市外で出産された、といった御意見をいただいて、まとめた数字でございます。

○副座長 分かりました。

○座 長 中身じゃないのですが、例えば今の近くにあります②－9とか②－11の数字が少し分かりにくいのですね。増加を示すのか、それとも累積の数を示すのかわからないので、これは機械的な話ですので修正していただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○委 員 2点ありまして、1つは、資料1－6の②－22、「つくばちびっ子博士パスポート提出者数」の自己評価は「D」なんですけれども、評価を見ると「中」「中」「B」で、目標数値に対してそんなにすごく遅れているように思えないのですが、どうしてこれは「D」なんですか。「D」とか「B」とかの付け方が少しよくわからないので確認です。本当に「D」で合っているかということを聞きたいだけです。

○事務局 先に「A」「B」「C」「D」の基準をもう一度簡単に御説明させていただきますと、27年度の経過の目標に対して、達成していれば「A」か「B」

になりまして、大幅に達成している、具体的に 120 %以上達成している、もしくは総合評価が「S」か「A」になっているものが「A」の順調、それ以外で数値を達成していれば「B」という評価になっています。

続いて、数値を下回っている、達成できていないものについては「C」か「D」になりまして、特に「D」につきましては、従前値、26 年度の指標に対してそれを下回ってしまった、そういったものについては「D」という形で遅れ、それ以外の若干下回っているものについては「C」という形で、進捗状況について評価をしています。

○委 員 分かりました。

○教育局 ただいまの御質問は、我々に対する御支援として捉えさせていただきます。

確かに、前年度の目標数値から下回るケースが出ていますけれども、これはコメントの中にも書いてありますが、天候とかいろいろ外部要因で下回っているような結果もございまして、それらも考慮しながら、我々も今後とも目標値を達成できるように努力していきたいと思いますので、ありがとうございます。

○座 長 数字だけ一人歩きしないように、実態がわかるように改善していただければいいのかと思います。

○委 員 根拠は分かりました。ありがとうございました。

一言申し添えますが、今までの会議でも発言させていただいたのですが、やはりつくばに直接親子で来ていただいてつくばを体験していただくとつくばのよさがわかるというのがすごくあると思うので、こういうちびっこ博士のようなイベントでぜひつくば市外から、東京とかいろんなところから、これをきっかけにつくばを訪れてもらって、転居したいなとか、こういうところに住みたいなと思っていただくいい機会だと思うので、先ほどの校外学習というものもありましたけれども、これをもっとPRしていただきたいなと思いました。

あともう一点、K P Iなのですが、昨年からの議論でこちらに決まったと思うのですが、例えば②-25の「仕事」と「家庭生活」の両方を優先していると感じる市民の割合というのがK P Iというのは、何となく違和感があります。これでワークライフバランスを推進する環境のK P Iなのかなというのがちょっと疑問で、目標数値も理想と現実の間をとってこの数値とかになって、どうなのかなと思うのですが、これはこの後、見直したりとかもあるのですか。

○座 長 特に初年度だからよくチェックしなきゃいけない。個別に、もしで

きたらこうしたらいいという御提案も後ほどメール等で寄せていただければと思います。確かにあいまいな指標になっていたりするのがあるかと。

それから、先ほどもありましたように、各部署だけじゃなくてプロモーションとか、あるいは科学技術政策とか、そういうつながり、ネットワークがあるわけなので、それを横断的に活用していかないと、というのは私も個人的に感想を持ちました。

(2) 地方創生交付金事業の評価・検証について

○座 長 引き続き、国からの交付金に対して評価・検証を行います。それを含めましてまた後ほど全体で。それでも多分足りないと思いますので、それはぜひ個別にまたメール等でいただければと思いますが、議事の進行上、一旦ここで議題の(1)の方は終了させていただきまして、次の議題(2)に進めてまいります。

資料の説明をお願いします。

○事務局 (資料2-1, 2-2について概要を説明)

○座 長 それでは、この交付金事業について、これは当初この委員会で議論していたわけじゃないのですが、市の方で応募し採択されたものということです。3つのタイプがあるようですが、どこからでも結構ですので、お気づきの点を御指摘いただきたいと思います。

○委 員 基-13の創業者定着支援事業ですが、1件ということで大変低い数字だと思うのですが、今後、上げるためにはどのような方策を考えていますでしょうか。

○経済部 中心市街地活性化創業補助金は中心市街地ということで、つくば駅の周辺は結構、商業施設等々もございます。ですから、そこへ立地したい、創業したい、また出店したいというような要望が以前ありまして、そういうことを踏まえて、東大通り、西大通り、北大通り、南大通りに囲まれた中心市街地の空き家等を活用して出店する方に補助限度額 200 万円ということで行ったところだったのですが、いざ、ふたを開けますと1件しかなかった。周辺部については問い合わせ、要望等がありましたが、1件しかなかったということがありますので、次年度以降を含めて、ほかの補助金をうまく活用して、併用しながらなど、そういう事業を踏まえながら対応していきたいと思っています。

○委 員 例えば商工会等へのPRの効果が少ないのではないのでしょうか。

○経済部 市内の関係団体と連携しながら、そういう事業を喚起しながら対応

様式第 1 号

してまいりたいと思います。

○座 長 ほかにございますか。

非常に短期間の事業だったので多分そういうことがあって、不用額もあるようなことでもったいないと思いますが、これをきっかけにニーズが掘り起こされていけばいいのかなとは思いますが、ほかにもございますか。

少し私からも。今年度できました BiVi の環境や利用というのがあるのですが、これは短い期間ですよ。年間 1 万 2,000 人以上。年間という意味がよくわからないのですが。

○市長公室 こちらに書いてある K P I の年間 1 万 2,000 人以上なのですが、実はこれは、今年度 9 月からオープンということで 7 カ月分の人数になっています。それから、今までは月曜日を閉館にしていたのですが月曜日もオープンしまして、年末年始はオープンしませんので、30 日でそれを計算していきますと 2 万 5,200 人ということになりますので、ここの K P I は更新したいと思っています。

○座 長 分かりました。

○副座長 非常に細かいことで、シティプロモーションと観光機能の強化事業なのですが、基-7 で「無料 Wi-Fi(外国人向け)」と書いてありますが、これは別に外国人に限らなくてもいいのではないかと。つまり、まず観光というのは外国人も大事ですけど、あれだけ大きな東京があるわけですから、日本人がたくさん来ることもすごく大事なので、例えば今、私これをやろうと思ったところ（消防庁舎）は無料 Wi-Fi じゃないなと思いましたけれども、無料 Wi-Fi は、日本人に対しても市内にたくさんあった方がいいのではないかなと思うので、どうなのでしょう。

○経済部 御意見ありがとうございます。BiVi つくば 1 階に観光の案内所があります。ちなみに、そちらの方の昨年 9 月から今年 2 月までの来館者は 2 万 4,000 人強でございます。その中で外国人の方が 5 % ぐらいいらっしゃるということがありましたので外国人を特出ししたのですが、いま委員がおっしゃるように、外国人に限らず、来館者ということです。

○観光物産課 補足しますと、ここは外国人向けと書いてありますが、当然、日本人の方も無料で使えます。分けてはできませんので。こちらの交付金を活用する上での事業名称が特出しになっているものですから、そういうふうな表現になっております。

○座 長 引き続きよろしくお願いします。

○委員 基-14 と 15 の、赤ちゃんを預かって、子育て中の女性に時間を、つくばの中で用を足せることを提供するといったら、やっぱり BiVi を使わせることが一番だろうと思うので、それを発言しておきます。

○座長 御検討いただきたいと思います。

BiVi は私も何回か利用させていただいていますけど、とてもいい位置にありますよね。あれがこれからどんどん活用できると、すばらしいつくばの顔になるのではないかなと思っています。よろしくお願いします。
ほかにございますか。

○市長公室 BiViの中には認可の保育所がございます。

○委員 預けるのにお金がかかるのですか。例えば1時間 100 円でいいとか 200 円でいいとか、保母さんがいるとか。それを県外にも発信するし、もちろん県内にも発信して、いかにつくばが住みやすいとか。若い女性たちに受けるという政策としては、使いやすい場所がないと。空いている公民館とかそういうところではだめなので、電車を使って来てポンと預けて、3時間、4時間有効に使えるということを念頭に置いて設定するというのが大事ですね。

○福祉部 御意見ありがとうございます。赤ちゃんの駅ですけれども、預け入れる施設ではございません。赤ちゃんをお連れになって外出したときに授乳であるとかおむつ替えをする場所を提供するということでございまして、民間の商業施設等にも声をかけて、市内でいきますと、現在、52カ所ほど駅として登録しています。もちろん市役所もその中に入っています。
そういった形で御利用いただいているということでお願いしています。

○委員 連れてきたそのときから預けられて自分が身軽になれるというサービス、それが大事ですね。そこから赤ちゃんをやっているところまで連れていくというのが。それから安価であるということですね。

○福祉部 預け入れる場合には、日中一時預かりというサービスもございます。これとあわせながら、連携してやっていければ非常にいいものになるかなと思います。

○委員 ぜひ。商工婦人部ではその応援をするようなことを考えていますから。

○福祉部 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○座 長 ほかにございますか。

これは単年度の予算で実行されたわけですが、これをきっかけにして、今のような御指摘も含めて、つなげていっていただければいいかなと思います。

○委 員 3枚目の最後ですが、「健幸長寿日本一をつくばから～元気な高齢者がまちに活力を生みだす」の中で、健康づくりに取り組むために多世代交流出前教室事業を実施したということで、私も回覧等で認識させてもらいました。これがとても大事なことは、介護保険の軽減、多世代との交流によって、ひきこもりになる高齢者とか、そういう方たちと交流できる、そういうのはすごくいい事業だと思いました。

その中で、期間が平成 28 年 1 月から 3 月ということは、もう今月で終わってしまうということなのでしょうか。

○健康増進課 この事業は、今年度事業の 12 月議会の補正予算で入った事業でございます。そういうふうな 12 月下旬から予算執行が可能だということで、1 月から、平成 27 年度の単年度事業ですので、とりあえずは 3 月まで。及び、当初予算でもこの予算を計上していますので、多世代の食育と運動を中心とした事業として平成 28 年度も事業を組んでいます。継続して発展的にやっていきたいと今のところは考えています。

○委 員 いいことだと思いますので、よろしくお願いします。

○座 長 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

(3) 平成 28 年度以降の事業について

○座 長 それでは、議題 2 の方はこれで終了して、議題 (3) に移りたいと思いますが、時間に余裕がありましたら、最後、全体を通してまた御意見をいただきたいと思いますので、とりあえず議題 (3) に進めていただければと思います。よろしくお願いします。

○事務局 (資料 3-1 の概要を説明)

○座 長 ありがとうございます。

それでは、全体について御意見等、ある意味こういう形で見えるようになったのは今回が初めてだというお話がありましたが、いかがでしょうか。

ちなみに、この 13 %、来年度予算ですけれども、これは 27 年度予算と比較するということとはできるのですか。割合としてプラスになっているのか。

○事務局 27 年度については、今年度初めてこの総合戦略というのをつくりまして、当初予算の策定の際に項目で抽出していませんでしたので、比較という形ではお出しできません。

○座 長 分かりました。今後、強化していくのか。特に第 2 項目は 87 億円ですが、全体としては増加していくのだろーと思えますけれども、全体の総予算の中での伸びなどについても今後注目していくためのいい資料になっていると思います。

(4) その他

○座 長 それでは、次に、議題を 3 つまで終わらせて、その他になりますが、その前に、まだ時間に少しゆとりがありますので、特に議題 (1) 等について、後ほどメール等でもいただければいいと思いますが、特に先ほど言い残していたというようなお気づきの点等ありましたら、何かございますでしょうか。

○委 員 質問じゃなくて意見として、分科会でも申し上げたのですが、この会の目的は、いかに首都圏から来ていただくか、そして人口のダムのようになって、こちらから出ていかないということも大事だと思うのです。

やはり子育て支援ですよ。若い方がつくばを見ていただいて、どなたも好感を持っていただけだと思います。ところが、いざ、本当に定住しようとするとかかなり事前調査し、子育てがどのぐらいしやすいのかということ非常に重視しますから、残念ながら、TX の沿線の中では、つくばみらい市、守谷の後塵を拝しています。遅れをとっています。子育て支援だけに限って言えば。だから、つくば市の今の最大の課題は、待機児童をどうするか。

先日の NHK の水戸のニュースでも出ていましたが、とうとう人口最大都市の水戸を抜いて、つくば市がワースト 1 になってしまった。この待機児童をどうして解消していくか。それと、待機児童という数字だけ見るのではなくて、潜在的な待機児童ですね、要するに、どうせ申し込んでも入れないだろうからといって申し込みもしない人がいっぱいいる。これを潜在的待機児童というのですが、この数がどれぐらいあるかということを残念ながらつくば市は把握できていない。待機児童は今、国を挙げての問題にもなっていますけれども、つくば市でも喫緊の重要な課題だと思います。

それと、小学校に上がった場合、学園都市の中は児童館が完備されていますから県内でも有数の学童保育ができるのですが、少し郊外に行きますと、学童保育がいわゆる学童クラブということで、PTA 等の自主運営に任せている。これが若いお父さん、お母さんにとっては、子育てをしながら働くという環境の面から考えると、つくばは遅れをとっているということをよく聞きます。

子育て支援ということをしっかり取り組んでいかないと、人口が流入するどころか、下手すればつくばから人が逃げていくということにもなりますので、議会でもさんざん議論はされているのですが、つくば市が本当に真剣に子育て支援に取り組んでいかないと、人口をこれからも定着させる、あるいは増やすというのは言葉だけで終わるような気がしますので、一言だけ申し上げておきます。

○座 長 ありがとうございます。

そのほか、全体についての御感想を、1 サイクル始まったばかりということもありますので、ぜひこの際ということで御意見等ございますでしょうか。

○委 員 先ほどの資料 1－6 に戻るのですが、個別施策に付随する K P I の部分で少し気になったのが、満足度を聞いている、満足度を K P I にしている項目が幾つかあったと思います。例えば、②－31 の「文化・芸術の振興について満足している市民の割合」とか、②－39 の「つくバスに満足している人の割合」、②－47 の「区会・自治会などの地域活動に関する満足度」。

特に、文化・芸術の振興とか、つくバスの満足度とか、そもそもの目標値が三十数%とか四十数%というのが目標になっていると思うのですが、今、例えば 3,000 人のものを 4,000 人にしていこうという場合はそういうことでもいいのですが、満足度というのは政策に対しての支持率みたいなものだと思います。そうすると、少なくとも 50 %、最低でも半分の人がその政策に満足しているというぐらいのところを最低限目標とすべきなのではなかろうかと思いました。これは意見ですが。

○座 長 なかなか分かりにくいですね。満足度というか、逆に不満足度というのをとるとどうなるのか。政権支持率じゃありませんが。

例えば、少し話がそれますが、東京から来られた方が、バスに乗って何でパスカードを使えないのと。こんな都市、今どきないですよ。どんな島に行ったら使えますよ。何でこのつくばが使えないのと。これはいろいろ事情があるだと思いますが、逆に非常に悪い印象、不満足度を与えています。そういうようなことも含めて、満足度とか不満足度というのはどういうふうに表示するかこれから御検討いただければと思います。

ありがとうございます。ほかにございますか。

たくさんの資料に対し、いろいろ御意見をいただきましたが、多分まだお話しいただいていない御意見もあるかと思いますが、これは後ほど事務局の方にメールを差し上げるということで、今後のまとめに活用していただく形になります。

それでは、最後に、今後の予定、スケジュール等を含めて、事務局より御説明をお願いします。

様式第 1 号

○事務局 本日は、お忙しいところありがとうございます。

少し付け加えさせていただきます。先ほど資料 3－1 で 28 年度の予算計上の件を説明させていただきましたが、委員からも御質問を受けたとおり、健幸長寿の件はここに載っていません。資料 2－1 で、基－ 10、大学生就職プラットホーム事業、タイプⅡの、生活支援ロボット普及促進事業、結婚・出産・子育てに関するライフプラン啓発事業、つくばライフスタイルセミナー、健幸長寿日本一、こちらについては特に交付金事業でやりまして、まち・ひと・しごと創生に資する事業だということで、先ほどの資料には載っていませんが、我々の方で予算は計上していますので、よろしくお願ひしたいと思ひいます。

今後のスケジュール等ですが、今回たくさんの意見をいただきましてまことにありがとうございます。時間が短いところでしたので意見を言い足りなかったこと等あったと思ひいます。ひと・まち連携課の方にメール、ファクス、電話等で御意見をいただければ、こちらでもお待ちしていますので、よろしくお願ひしたいと思ひいます。

いただいた意見につきましては、担当課の方に戻して修正して、書面にて再度、委員の皆様へ御提出させていただきたいと思ひいます。

スケジュールについて、資料 4－1 になりますが、有識者会議の方は年度末の K P I の指標を確認していただき、御意見をいただくということで、来年のまた今ごろ、3 月の中旬を予定していますので、よろしくお願ひしたいと思ひいます。

数値が確定していない K P I 等のものについては、フォローアップ調査を行い、後日数字を確定したいと思ひいます。27 年度の指標評価検証、確定した後で書面にてまた委員の方にお知らせすることにさせていただきたいと思ひいます。

以上です。よろしくお願ひします。

3 閉会

○座 長 それでは、本日、第 4 回会議をこれで終了いたします。

このような P D C A のサイクルをこれから改良しながら回していったら大変素晴らしいものになるだろうと思ひいますので、ぜひ皆様の御意見を反映していただければと思ひいます。

ありがとうございました。

○公室長 長時間にわたり貴重な御意見をいただきまして本当にありがとうございます。